



国際協力

No.47 2016.4.1

JICA 駒ヶ根

新所長 挨拶



駒ヶ根青年海外協力隊訓練所
所長 清水 勉

皆様、はじめまして。
このたび仁田所長の後任としてJICA駒ヶ根に着任しました。駒ヶ根は、1988年に青年海外協力隊の派遣前訓練に参加して以来、実に27年ぶり、自分にとっては、国際協力の道に進むきっかけとなった地です。自分の「原点」に立ち帰って、これまでお世話になった方々に恩返しができるよう精いっぱい取り組みたいと思います。ご指導・ご鞭撻のほどお願いいたします。

私の海外駐在先は、インド、パキスタン、そして、今年3月まで駐在していたネパールです。ネパールは、協力隊に参加して生まれて初めて過ごした外国で、もう一つの私の原点です。神々の座

ヒマラヤとブッダの生誕地ルンビニを抱え、多くの民族が伝統を大事にしながら共存している国です。昨年4月に、約9千人が犠牲になり約50万戸の住宅が全壊するという大震災が発生し、その復興も進まないうちにインド国境の封鎖で極端な燃料不足となって市民生活は大打撃を受けました。そんな中でも明るさを忘れず前向きなネパール人に勇気づけられながら、現在JICAは、住宅と学校の再建を通じてネパールの復興支援に懸命に取り組んでいます。今年は日本・ネパール国交樹立60周年ですので、姉妹都市である駒ヶ根市とポカラ市を核として、長野県とネパールの友好親善が一層深まるよう少しでも手伝えればと思っています。

これから地域の皆様に教えていただきながら、長野県が世界と繋がりに元気になるために、JICA駒ヶ根がどのように貢献できるか一緒に考えていきたいと思っています。また、仕事の合間には自分の好きな山登りも楽しみにしています。皆様、よろしく願いいたします。

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2015

長野県から今年も2作品が全国表彰賞に選ばれました!

今年のテーマは「世界を知ろう!考えよう!」
~よりよい世界のために私たちができること~

このエッセイコンテストは次の世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがど

のように行動すべきかを考えることを目的として実施しています。中学生の部は20回、高校生の部は54回を数える歴史の長い作文コンテストですが、今回は中学生の部40,119点、高校生の部29,636点、総数69,755点もの応募がありました。

長野県からは中学生の部で1,042点、高校生の部で1,531点もの応募があり、個人賞15点、学校賞14校が受賞しました。

2~3月には各受賞校へ訪問表彰に伺いました。毎年の常連校さん、新規の学校さん、様々な先生や生徒さんらとお会いでき、受賞の生徒さんらは、エッセイを書くにあたっての経験や、受賞によって世界への扉が広がったこと、将来の夢などを語ってくれました。

また、昨年に引き続き赤穂中学校からは柿田さんと、いづな学園グリーンヒルズ中学校の深田さんが、2月27日に東京のJICA地球ひろばで行われた全国表彰式に参加。お二人を含めた最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞の受賞者には、副賞として約1週間の海外研修が贈られます。夏休みに、青年海外協力隊の活動現場やJICA事業の現場を訪問し、開発途上国や国際協力について学べます。

毎年長野県からは多くの応募があり、高校生の部の応募数は、なんと人口比で言うと全国都道府県で1位! 来年もたくさんの生徒さんが、世界、国際協力について考えながら作品を寄せてくれること、楽しみにしています。



いづな学園グリーンヒルズ中学校 深田さん



下伊那農業高校 今村さん



篠ノ井高校 田村さんと上田さん



松川高校 塩澤君



上伊那農業高校 中村さん



上田高校 鍋島さんと松山さん



信大付属松本 松井君



赤穂中学校 柿田さんとウィラコーン君



長野商業高校 丸山さんと小林さん



富士見中学 馬場さん

受賞者一覧

中学校の部

- 外務大臣奨励賞(最優秀賞/全国表彰対象)** / 駒ヶ根市立赤穂中学校 柿田穂香さん「恩返し」
審査員特別賞(全国表彰対象) / 学校法人いづな学園グリーン・ヒルズ中学校 深田朝日子さん「フィリピンの小さな島で学んだこと」
所長賞 / 駒ヶ根市立赤穂中学校 ウィラコーンわたるくん「パンサルベッティエ(パンケースという意味)」
佳作 / 信州大学教育学部附属松本中学校 松井友郎くん「世界を見る～マサイ族の暮らしを通して～」
 富士見町立富士見中学校 馬場百合野さん「教育」
特別学校賞 / 駒ヶ根市立赤穂中学校
学校賞 / 上田市立菅平中学校・上田市立第一中学校・信州大学教育学部附属松本中学校・飯田市立高陵中学校

高校生の部

- 所長賞** / 上田高等学校 鍋島理子さん「商業活動を通じた国際貢献」
佳作 / 篠ノ井高等学校 上田菜月さん「世界の子供の九人に一人について」
OB会会長賞 / 下伊那農業高等学校 今村月愛さん「日本人ができること」 篠ノ井高等学校 田村くるみさん「海外支援について考える」
 松川高等学校 塩澤佑樹くん「平和」の持つ意味とは?」 松川高等学校 宮澤幸作くん「世界のために自分達にできること」
 上伊那農業高等学校 中村香月さん「私達ができること」 上田高等学校 松山愛さん「最初にするとは…」
 長野商業高等学校 丸山里菜さん「今、私ができること」 長野商業高等学校 小林侑希さん「世界とのつながりを考える」
特別学校賞 / 下伊那農業高等学校・上伊那農業高等学校・松川高等学校・長野高等学校
学校賞 / 佐久長聖高等学校・篠ノ井高等学校・上田高等学校

シリーズ 世界から、地域で活躍！ 信州で活躍する元協力隊員に聞きました。

今回は、帰国後20年以上経った重鎮OBの方々です！



駒ヶ根市在住
 平成1年度1次隊
 派遣国：ペルー
 職種：農業土木
 出身：駒ヶ根市



Q1：協力隊員となったきっかけは？
 駒ヶ根市出身なので協力隊はとても身近でしたね。学生のころから協力隊になりたくて、そのために学校も土木科を、そして就職も選びました。卒業後4年間公務員として働いた後に応募しました。

Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？
 当初合格したのはケニアでしたが、直前にペルーに変更されてうれしかったです。以前からペルーの音楽が大好きでペルーの笛を演奏していたので。任地ではなかなかやりたいことを実現するまでには至りませんでした。当時のペルーは国としての体制が整っておらず、ハイパーインフレ中。役所が配属先でしたが、物価がどんどん上昇し、同僚の役人たちは給料だけではやっていけない状態で、自分だけががんばってうまくいきませんでした。テロや政情不安、インフラの中で四苦八苦していました。

Q3：協力隊の経験は今どう生きていますか？
 現地での生活はほとんどが人力・手作業。モノがない中でどうやっていくのか、自分の手や知恵を使うということ学びました。何でも自分でやらなくちゃいけないので、車のエンジンを取り外して自分で修理している人、部品を作っている人なども見ました。

Q4：今、協力隊について思うことは？
 現在、からくり楽器を作り演奏するのが仕事ですが、ペルーで見た道端の音楽家がヒント。マンドリンを抱えてピックとパチを持ち、口にはハーモニカ、足には太鼓、の大道芸人を見て自分もそうなりたいなと。ペルーでのことが今の生活にも活かしています。
 帰国直後は、実は協力隊の経験が「苦勞の種」。税金を使ったのに成果は出せず、と自分を責め、協力隊OBであることが重荷になったことも。でも20数年たった今、宝物ですね。自分の基礎となっています。



塩尻市在住
 平成7年度2次隊
 派遣国：ニジェール
 職種：自動車整備
 出身：東京都



Q1：協力隊員となったきっかけは？
 学生の時、電話ボックスに4人の外国人が入り、祖国へ国際電話をしながら涙を流している姿を見かけました。その時、途上国の貧しさというのはこういうことかと実感したことがきっかけですね。就職後も協力隊をめざし、仕事をしながら自動車整備の学校に通って資格を取りました。その後、3年間塩尻市で自動車整備士の経験を積み、やっと協力隊に合格しました。

Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？
 配属先は首都ニアメの公衆衛生省。ニジェール人の同僚に技術を指導したり、国中の病院を回って救急車を修理したり。自動車が動かなくなり、お母さんとおなかの子どもが亡くなるということを知ると悔しく、絶対故障しない救急車にしてやろうと頑張りましたね。とにかくモノがなく、なんでも自分で作らなくてはいけない生活でした。
 自分の家族がニジェールを訪れてくれた時、子どもたちにはニジェールの良いところ悪いところ、全て見せましたが、日本人と外国人を知らない間に区別していたんだ、ということに気付いてくれたようです。
 また、貧しいために学校に行けない子どもたちを目の当たりにし、教育のありがたさを身に染みて感じることもできました。

Q3：協力隊の魅力とは？
 帰国時、空港までの道のりで、自分が教えた子どもたちが自転車直しているのを車内から見た時、本当にうれしく、来てよかった、と感じることができました。協力隊の魅力は、自分がやった行為を笑顔で受けとめてもらえること、だと思います。

Q4：OB会会長として思うことは？
 青年海外協力隊長野県OB会の会長を7年間ほど務めています。他県のOB会の方々とお会いし意見交換ができる機会など、貴重な経験をさせていただいています。この間協力隊になる若者たちも変わったと感じています。でもいろんな方がいるからこそ魅力あるOB会になると思っているし、そういう会にしていきたいですね。



松本市での国際交流イベントにて、国際理解ワークショップを行う松本さん(中央)

イベント・レポート

Event Report

1/31

協力隊OBらによる餅つき大会! @駒ヶ根訓練所

駒ヶ根の宝といえば、エネルギーにあふれたJICAボランティア候補者、そして帰国後駒ヶ根に住んでいる元協力隊員ら、と自負しておりますが、人口3万人ほどの駒ヶ根市に住んでいる元隊員は30人以上! そんな地元の元隊員の有志らが中心となって、駒ヶ根訓練所で餅つき大会を行いました。訓練中の4次隊候補者や語学の先生方、訓練所スタッフ、そして一般の子どもからお年寄りまで、70人を超える人たちが参加。元隊員夫妻の育てたもち米を使い、参加者が地元の農産物を使った料理を持ち寄ったの交流が行われました。

この餅つき大会は今年で2回目。近辺に住む元協力隊員、そしてご家族や友人など、訓練所を通じてつながりを持ち、親睦を深めていることは、JICA駒ヶ根にとっても大変うれしいことです。



2/28

第10回クロスカルチャーデー in Komagane

駒ヶ根市の良さを世界にアピールしようと始まった本イベントも今回で10回目。中米やアフリカ、アジアなどの様々な国からの海外ゲスト13名とJICAボランティア候補生10名で、ロープウェイに乗車して千畳敷カールへ。前日の雪のおかげで山頂には新雪が多く、青空が広がり、美しい一日でした。海外ゲストは慣れない雪の冷たさに感動し、雪だるまをつくったり、記念撮影をしたりと、終始大興奮。その後ホテル千畳敷の食堂をお借りし、日本文化の体験として、押し花や餅つきを行いました。

昼食では、つくたてお餅や、信州名物のおやきやおでんなどを美味しくいただきました。

帰りに各研修員の名前を漢字で筆を使って書いたものをプレゼントすると、大喜びしてくれました。次回は5月に開催予定です!



2016年度 JICAボランティア (青年海外協力隊・シニア海外ボランティア) 春募集説明会を行います!

今年も県内4か所にてJICAボランティアの募集説明会が開催されます。ベナン、モロッコ、ホンジュラスの元協力隊員による体験談あり、個別相談あり、盛りだくさんの内容です。恒例の駒ヶ根訓練所での「一日体験入隊」では、無料送迎バスも運行します!(乗降場所:長野市、松本市、JICA中部)



応募を考えている方はもちろん、応募するかは未定だけれど協力隊に興味がある、という方もぜひどうぞ。「一日体験入隊」以外はお申込み不要です。お気軽に会場へお越しください!

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ・4月 9日(土) 午後2時~4時 | 長野市生涯学習センター(TOiGO)第3学習室 |
| ・4月14日(木) 午後6時半~8時半 | 松本市中央公民館(Mウィング) 4階4-4会議室 |
| ・4月23日(土) 午後2時~4時 | 佐久市コスモホール2階 会議室3 |
| ・4月24日(日) 午前10時15分~午後5時 | 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所「一日体験入隊」 |

※参加費500円(昼食代)、4月中旬々切予定。但し、定員に達し次第々切ります。対象は高校生以上。

各会場の詳細案内と、一日体験入隊のチラシ兼お申込書はJICA駒ヶ根のウェブサイトからダウンロードできます。

JICA駒ヶ根 中小企業海外展開支援

民間連携事業インドネシア視察調査団を実施しました。



ジャカルタの病院にて、JICA駒ヶ根青年研修に参加した職員の方たちと調査団の皆さん。

インドネシアにおけるJICAの民間連携ボランティアや中小企業海外展開支援事業などを視察する「民間連携事業インドネシア視察調査団」を2月に実施しました。本視察調査団には、県内の企業・団体から7名が参加。出発前に訓練所にて事前説明会を行い、県内出身の元協力隊員からインドネシアの体験談や現地の様子を聞きました。

視察調査団は、2月6日～13日の日程でインドネシアのロンボクおよび首都のジャカルタを訪問。ロンボクでは民間連携ボランティアをはじめ3名の青年海外協力隊員の活動を視察。ジャカルタではJICA駒ヶ根が長年佐久地域で実施している青年研修の研修員が働く病院を訪問。またJICA中小企業支援事業を行っている香川県の企業を訪問しました。八十二銀行現地駐在員との、また在ジャカルタ長野県人会との懇親会も実施し、インドネシアの魅力や課題等を話し合いました。

最終日には、JICAインドネシア事務所、JETROジャカルタ事務所を訪れ、インドネシアの現状や投資環境、開発課題やJICAの協力プログラムについて学び、インドネシアへの進出のメリットや課題、現地での人材育成など、多くの貴重な情報を得て帰国しました。その後3月4日に行われたASEAN地域向け「中小企業海外展開支援事業紹介セミナー in 松本」にて参加者2名の方々に報告もしていただきました。

JICA駒ヶ根では、2016年度も県内の企業・団体を対象とした視察調査団を実施する予定です。(7月頃決定予定)。次回のご参加をご検討ください!

JICA駒ヶ根では、2016年度も県内の企業・団体を対象とした視察調査団を実施する予定です。(7月頃決定予定)。次回のご参加をご検討ください!

草の根技術協力事業

JICA駒ヶ根が実施中の「草の根技術協力事業」は全て地域提案型(地域活性化特別枠)で、下記の案件が実施中です。

- ・飯田市: 公民館の仕組みをフィリピンへ
- ・駒ヶ根市: 母子保健改善をネパールへ
- ・南牧村: 安全農業技術をフィリピンへ
- ・佐久穂町: 高齢者ケアの仕組みをスリランカへ
- ・佐久市: 高齢者ケアの仕組みをタイへ

3月22日には、上記の駒ヶ根市の事業の中間報告会が市役所にて行われ、一般市民の方も含めた約40名が出席。北原プロジェクトマネジャーから、現地スタッフ

に恵まれ、事業が発展しているとの報告、そして参加者も巻きこみアイデアをもらうワークショップなども取り入れた活気あふれた会となりました。

この事業は長野県の知見を開発途上国に活かすだけでなく、日本の地域を活性化することも期待されています。今年度の新たな事業の募集要項がウェブ上でも公開されましたので、長野県内の国際交流、国際協力を実践されている団体様はぜひご応募ください。ご相談はアイデア段階からお気軽にどうぞ!



3/22の駒ヶ根市の報告会にて、参加者同士のグループワークの様子。(立っているのが北原プロジェクトマネジャー)

JICA長野デスクの窓から♪

●学校とのコラボレーション

秋から冬にかけて、国際協力出前講座などの教育プログラムで県内の学校へお邪魔することが多くなります。2015年度に訪問させていただいた中で、特に印象深い学校をご紹介します。

□上田高等学校

年間を通じてSGH(スーパーグローバルハイスクール)のカリキュラムにJICAの開発教育プログラムなどを盛りだくさんに組み込んでいただきました。2月にはSGH報告会の中で、信州大学学長、県教育長とともに登壇しパネルディスカッションをさせていただきました。



報告会のパネルディスカッションに榎本推進員が参加。

□長野日大学園 長野小学校・中学校

JICA開発教育指導者セミナーに先生がご参加くださ

たご縁で、JICAに深く興味を持っていただきました。先生方が行うワークショップ「貿易ゲーム」も見学させていただきました。授業の中に、自然な形で国際理解教育を取り入れていらっしゃる。来年度はJICAとコラボが実現したらいいなあと思っています。

□いいづな学園グリーンヒルズ中学校

生徒さんがJICA中高生エッセイコンテストで全国表彰され、お邪魔させていただきました。お話の中でJICAとのご縁があったことがどんどん判明していった、びっくり箱のような学校でした。大自然に囲まれ、のびのびと学ぶ子供たちのために、JICAがお力添えできればうれしいです。



貿易ゲームの様子



いいづな学園グリーンヒルズ中学校

国際理解教育を始めてみたい学校からのお問い合わせ、大歓迎!JICA長野デスクまでご連絡ください。
TEL:026(235)7186 県庁・長野県国際化協会内

協力隊員
現地レポート
from カンボジア
こやま みお
小山 実央さん
平成26年度1次隊
職種:小学校教員
長和町出身



鍵盤ハーモニカの授業

私はカンボジアのコンポンチュナン州にある小学校教員養成校で、体育、音楽、図工の授業のサポートをしています。カンボジアは、1975年から4年間続いたポル・ポト政権によって、知識人のほとんどが殺され、教育制度も崩壊しました。今、まさに立て直しの真っ最中！特に近年、国全体で教育に力を入れています。

音楽の授業では、赴任した時すでに日本からの支援

で鍵盤ハーモニカがあったので、鍵盤ハーモニカの授業もしています(長野県から来ているものもありました！)。人生で初めて楽器に触る学生も少なくありません。指を震わせながら一生懸命吹いています。学生たちは真面目で素直。積極的に授業に取り組んでいます。楽しそうできいきした表情を見ると私も嬉しくなってきます。カンボジアの未来を担う教師の卵である学生を相手に授業



学生がサプライズで誕生日のお祝いをしてくれました

をすることは責任重大ですが、やりがいもあります。任期もあと少し。大好きな学生たちとお別れすることを思うと寂しいですが、カンボジアの未来のために、自分にできることを全力で取り組んでいこうと思います。

任期中もあと少し。大好きな学生たちとお別れすることを思うと寂しいですが、カンボジアの未来のために、自分にできることを全力で取り組んでいこうと思います。

帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動
お疲れ様でした!!



平成25年度1次隊
つちや おうみ
土屋 桜美さん ●派遣国:マレーシア
(軽井沢町) ●職種:体育

「Sudah makan?(スダ マカン?)」会話の前に必ず出てくるこの言葉。言葉の意味は、「もうご飯食べた?」です。いつでも相手のお腹の状況を気にかけてくれます。ちなみに私の返事はいつでも「Sudah!(もう食べたよ!)」

私はマレーシアにあるクランタン州コタバル市という、タイとの国境にある場所で2年間活動をさせていただきました。任地では社会福祉局に配属され、州内にある障がい者施設で利用者さんと職員へ向けての



スペシャルオリンピクスマレーシアの開会式。一番右が土屋さんの教え子の選手と、右から2番目が土屋さん。

運動指導と、スペシャルオリンピクスマレーシアに参加する水泳選手への指導を行ってきました。



活動先である障がい者施設にて、二人一組での運動。

活動中は、言葉や文化、宗教面からの考え方の違い...と、悩みどころもありましたが、私の思うマレー人特有の「暖かさのある適当さ」に助けられながら、2年間活動を続けることができました。

また、日本にいたときには「当たり前」と感じていたことへの感謝の気持ちを知ることもできました。

これからは、自分の経験してきたことや、協力隊の活動をたくさんの人たちに伝えていくことができたらいいなあ。と思っています。

新スタッフ



語学訓練アドバイザー
いしだ たくりつ
石田卓立

今の私の生活にとって、communicationこそがキーワードとなっています。駒ヶ根は見知らぬ地でしたが、毎日ネットワーク設営の為に、たくさんの人と会い会話をすべく歩いています。この過程は駒ヶ根訓練所で学ぶ訓練生の姿と似ていると思います。頭が活性化され子供のように楽しい夢を毎晩みるようになりました。

Information JICA駒ヶ根 インフォメーション

派遣前訓練公開講座

参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

- ▶ **映画「クロスロード」上映会**
内容：カメラマン助手になったものの、目標の見えない日々を過ごしていた沢田（黒木啓司）は、自分を変えようと青年海外協力隊に飛び込むが…
4月30日(土) 15:10～17:00
定員：20名
- ▶ **地球のステージ(コンサート)**
内容：途上国で巡り合った人々との交流を映像と音楽そして語りて表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域での子供たちの明るくたくましい姿などを映し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。
5月11日(水) 15:10～17:00
定員：20名 講師：桑山紀彦氏(地球のステージ事務局)

- ▶ **異文化適応概論**
内容：文化とは何か、理解とは何か、カルチャーショックとは何か、適応するとはどういうことかなどの異文化に入って行くにあたっての心構えを説く
5月16日(月) 15:10～17:00
定員：10名 講師：木村秀雄氏
(東京大学大学院 総合文化研究科 教授)
- ▶ **国際関係と日本の国際協力**
内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する
5月23日(月) 15:10～17:00
定員：10名 講師：廣野良吉氏(成蹊大学 名誉教授)

※講師の都合等で実施日が変更になる場合があります。
ホームページ <http://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

平成27年度第4次隊

長野県出身新ボランティア

行ってきます!!

青年海外協力隊

こばやし のりお
小林 憲生 さん(中野市) 派遣国：マダガスカル 職種：コミュニティ開発

「今君たちが学んでいる技術を活かせば、世界で困っている人々を何千何万と助けることができる。やりがいのある仕事とは思えないか?」沖縄で出会った先生の言葉です。文系でも何かできることはある。そう思い、協力隊に志望しました。

いとう たまか
伊藤 珠香 さん(松本市) 派遣国：グアテマラ 職種：助産師

赤ちゃんの誕生という幸せで素敵な瞬間に立ち会うことのできる職業、助産師として、グアテマラのママを始め、子ども達や家族みんなからたくさんの笑顔をもたらしてくれます!!

きくち りな
菊池 梨奈 さん(佐久市) 派遣国：パラグアイ 職種：看護師

今までの経験を生かし、少しでも貢献することが出来たらいいと思っています。医療現場に留まらず多くのことを吸収し、どんな時も“笑顔”を忘れず、成長して帰ってきたいです。

たなか あきみ
田中 亜季美 さん(上田市) 派遣国：ジブチ 職種：理科教育

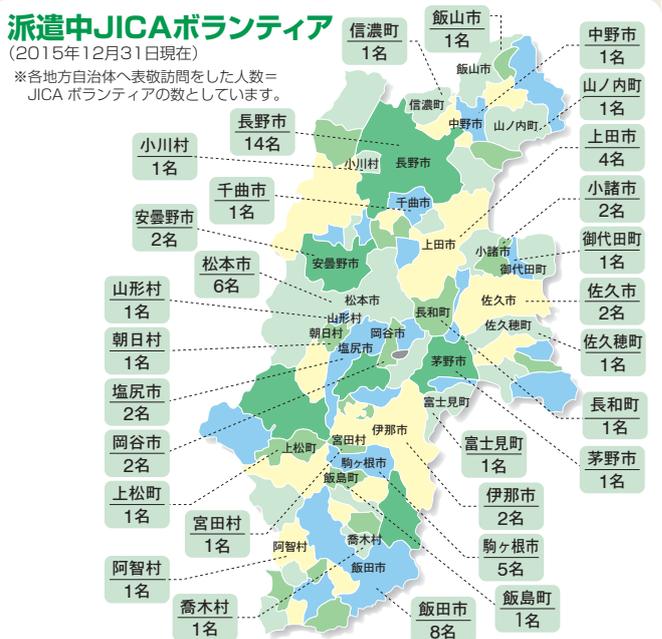
友人から体験談を聞くうちに、私も挑戦したいと思応募しました。教師経験はないですが、今までの経験を活かし地球上で一番暑い国ジブチで奮闘したいと思います! この先どんな出会いがあるのか楽しみです。

からさわ みわ
唐澤 美和 さん(伊那市) 派遣国：フィリピン 職種：看護師

フィリピンでは、主に母子保健に関する活動を行う予定です。職種は看護師ですが、助産師として働いていましたので、その経験を活かし現地の母子のために少しでも役に立つ活動が出来ればいいと思っています。

いまだ ようへい
飯田 陽平 さん(伊那市) 派遣国：インド 職種：コミュニティ開発

2014年にフィリピンを訪れた際、ストリートチルドレンの子供に出会い、自分ができることがあれば何かしたい!と思い、応募しました。インドでは養蚕技術の普及を通じ、現地の人々の笑顔に貢献したいです。



長野県関係者 JICAボランティア派遣実績
平成28年2月29日現在

①青年海外協力隊員 派遣中 58名 累計 956名	③日系社会青年ボランティア 派遣中 2名 累計 24名
②シニア海外ボランティア 派遣中 7名 累計 76名	④日系社会シニアボランティア 派遣中 0名 累計 4名

発行 独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp
<http://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!
<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン
☑ 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp
までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。